

中国農村の経済発展と

村民委員会選挙

胡 荣

...

はじめに

一九八七年〈中華人民共和國村民委員会組織法〉が公布、実施されてから、村民が直接に選挙する村レベルの管理機構である村民委員会が続々と全国に設立された。各省が村民委員会組織法を貫徹、実施するうちに取り入れた方法はさまざまであり、実施のレベルにも大きな差があったが、しかし、一つ絶対否定できない事実、若干ではあるが真の選挙が既に一部の行政村で行われ、この種の選挙はいままでの形式に流れる選挙と大分違うということである（王振耀・湯晋等一九九四）。村民委員会の選挙は過去の選挙と大きな違いがあったので、中国や西洋学者に注目され、こ

の方面での研究を進展させた（包心鑒・王振海一九九一、王振耀・湯晋蘇等一九九五、一九九六、徐勇一九九七、鄭永年一九九六、Kellihier, 1997; Oi, 1996; Oi and Rozelle, 1997; Dearlove, 1995; O'Brien, 1995; Marion, 1996; Lawrence, 1994; Hu, 1998）。これらの研究のうち、ジーン・オイは経済発展と村民自治の関わりについて探究した。ジーン・オイは「経済発展、安定及び村民の民主的自治」で中国の貧困村の指導問題に関して二つの解決方法を考察した（Oi, 1996）。一は党の指導を改善する、二は村民の民主的自治を実行することである。貧しい村にとって、民主は経済発展を促進する確かな方法であり、豊かな村にとっては、民主は安定と団結に役立つと私は考える。経済発展は良き指導と相關するけれども、経済発展は民主的指導に関わりがあ

るとは限らない。高度工業化を遂げた村落の経験に明示されているように、経済発展と民主の間は反比例することがある。「民主と市場——参加の政策と中国農村の経済発展」でジーン・オイとスコット・ロゼルが更に断言しているように (Oi and Rozelle 1997: 17)、高い収入と競争の激しい選挙及び参加の間には対応関係が存在せず、「ほとんどの場合、収入の増大にともなって、競争の激しい選挙と参加は減少する」。両氏が一九九六年に、二百の村に対するサンプリングの調査と分析のうえに出した結論である。両氏は調査した村を貧困と裕福の二種類に分けた。彼らは、貧しい村のうち自営業の多い村 (A類) と大勢の村民が出稼ぎのルートで収入を増やした村 (B類) では、選挙と村民代表会議の実施が軌道に乗っていないこと、大量の村民が村に残り、しかも農業生産に頼って収入を獲得した村 (C類) では、村民の参加意識はかなり高いが、豊かな村では村企業で働く人数が増えるにつれ、次第に競争の激しい選挙と参加が減少していく点に気づいた。

実際は経済発展と民主の関係は新しい話題ではなく、リップセット (Seymour Lipset) はとうにこの問題について研究にとりくみ、経済発展は民主を促進することができると見て、次のように指摘している。「政治システムと社会の他の分野を相関させる最も一般的な根拠は恐らく、民主が経済発展の状況に関わることである。国が豊かであればあるほ

ど民主の可能性も多くなる」 (Lypset 1997: 27)。豊かな社会では、現実には貧困線上にいる人が比較的少ないので、このような局面が現れ、大勢の民衆が理知的に政治に参加し、自我制約の必要性を意識することによって盲従や無責任の煽動を避ける。国が豊かであれば、強大な中産階級が温和でかつ民主的な政党を支持すると同時に過激な団体を抑制し、衝突を緩和させる。国が豊かであればあるほど、民主規範をうける能力が強化される。というのは充分な財があればそれを分配しても大きな差異を生じないからだ。豊かな社会にある多くの民間組織は、国あるいはいずれかの単一民間権力センターがあらゆる政治資源を独占しようとするのを阻止することができ、大勢の人々に宣伝 (特に反対意見の宣伝) を行う道具になり、人々の政治技法を訓練し、人々の政治への関心を高め、参加のレベルをあげることに役立つ。現代化理論 (Przeworski and Limongi, 1997) も経済の発展につれて最終的には民主が出現するとの見方である。しかし、是非指摘すべきなのは、われわれはここにおいて経済発展と民主の関わりという古い話題を検討、論議しているが、われわれの言う末端単位の民主と、リップセットが述べる社会の民主とは大きな違いがあることだ。リップセットが「複雑な社会にある民主は一種の政治システムと定義でき、この政治システムは定期的に政府の役人入替えて憲法に合致させる機会を与える。これはまた一種の社会メカニ

ズムとも定義でき、この社会メカニズムは、できるだけ多くの人々が政治競争者のよりわけを通じて、重要な政策決定に影響を与えることを可能にするのである」と述べているが(Lypset 1997: 24)、「われわれが言っている村民委員会の選挙は一種の末端単位の中にある民主であり、三年ごとに村民の選挙によって行政村の公共事務を管理するリーダーを選任する制度である。われわれが知りたいのは村民委員会組織法が実施されたなかにおける、行政村の経済発展レベルが村民委員会の民主的選挙に与える影響というものである。

ジョン・オイ等のアンケート用紙による調査研究の方法と異なり、われわれはここで定性的な研究方法を用いることにした。筆者は福建省廈門市^{アモイ}と寿寧県から経済発展レベルの異なる三種類の行政村を選び、これらの村民委員会の選挙の一部始終を観察し、また五〇人あまりの村民、村民委員会幹部と郷鎮のリーダーにインタビューした。われわれが研究を通してわかったのは、経済発展が村民委員会の選挙を促進できること、即ち、経済がわりあい発達した地域にある村民委員会の選挙は一層激しくなり、村民の参加意欲が高く、村民委員会組織法及び関連法規がより良く貫徹、実施されることである。

事例調査

一九九七年は福建省村民委員会の任期満了、選挙の年で

ある。筆者は一九九七年三月一〇日から五月二〇日にかけて、経済発展レベルに差のある福建省廈門市湖里区禾山鎮、廈門市集美区灌口鎮頂許村と寿寧県犀溪郷の村民委員会の選挙状況について現地調査した。次の三つに分けて論じることとする。

- (一) 経済状況
- (二) 村民委員会の選挙
- (三) 村民代表と村民組長の選挙

(一) 経済状況

廈門市湖里区禾山鎮の農村は三種類の行政村の中で最も豊かである。廈門は全国において対外開放の先頭に立った四つの経済特区の一つであり、廈門島内の農村も経済発展の高い水準に達している。各村の毎年の公共収入は数百万元以上にのぼる。禾山鎮後坑村の例を取り上げてみよう。この村の総人口は三二五一人で、一九九四—一九九六年の三年間に村の公共収入は九七二万を上回った。後坑村は経済特区に位置するので、多くの耕地が収用され、土地買収の補償金は村財政の重要な収入である。その他、村企業による収入もある。一九九六年この村の社会総生産高は一億四八〇〇万元で、一人当たりの年収入は四八四三元となる。村幹部（村民委員会メンバー、村党支部メンバーと村から招聘された幹部を含む）の月給は一〇〇〇元ぐらいである。廈門湖

表1 犀溪郷と後坑村の公共収入の比較

(単位: 元)

		1994年	1995年	1996年	合計
福建省寿寧県 犀溪郷村委員会	収入	18,181.15	44,555.50	48,206.90	110,943.55
	支出	24,806.07	36,555.30	54,767.10	116,128.47
福建省廈門市 後坑村村民委員会	収入	2,941,000.00	3,703,400.00	3,078,000.00	9,722,400.00
	支出	485,000.00	896,000.00	788,600.00	2,169,600.00

出所: 1997年5月犀溪調査、1997年3月後坑調査による。

里区の後埔村では、村財政の収入が多いので、村民委員会は毎月村民の一人一人に一〇〇元ずつの手当を実施する。もちろん、この種の豊かな農村が福建省及び全国で占める比率は決して高くない。厦門市集美区灌口鎮頂許村は厦門島から離れたところであり、経済発展レベルも厦門島内の農村より遅れている。この村の公共収入は低く、毎年平均一〇万元ぐらいである。この村も一部の耕地が収用されたがその量は少なく、村には一〇〇万元を投資した村運営の煉瓦工場があるが、経営不振に陥り連続し

て欠損を出してしまった。村の幹部の一月の手当は五〇〇元、村民組長の一年の手当は五〇〇元で、村民代表には会議を開くときだけ出勤の手当として、半日一〇元が出る。福建省ではこのような中レベルの行政村が相当の比率を占めている。

寿寧県犀溪郷は調査した三種類の行政村のうちで経済が一番たちおくれた地域である。寿寧県は福建省東北部に位置し、浙江省の泰順県と県境を接し、資源が乏しいうえに、交通も不便で、経済発展が低い水準にある。この行政村は一年の公共収入がわずか数万元で、多いときでも一〇万元にとどまる。寿寧県犀溪郷を例に取り上げよう。この村の総人口は三二一〇人で、一九九四―一九九六年の三年間で、村の公共収入は一万元しかない。毎年平均で四万元にも達していない(表1)。村の財政の主な出所は旧生産大隊が残した公的財産、つまり山林・茶畑・果樹園などである。村幹部の党支部書記と村民委员会主任は月に二二〇元の手当を貰い、この手当は郷政府から交付され、郷と県財政からはそれぞれ半分の支出となっている。また経理、民兵大隊長は郷政府から月に五〇〇元の手当、他の委員は村民委員会から月に二五元の手当を貰っている。

(二) 村民委員会の選挙状況

福建省の村民委員会選挙は幾つかの段階からなっている。

一、選挙機構の成立。一般的に郷鎮レベルの機構成立には郷要人が組長を担当し、郷党委員会、人民代表大会、政府の關係者から選挙指導組を作る。仕事は選挙にかかる配置、事務指導、監視の工作であり、村民をより良く選挙運動に導くのが主旨である。一方、各村では村党支部書記が組長を担当し、村党支部と村民委員会のメンバーが参加する村選挙指導組は具体的に選挙事務の人員を決め、選挙人資格の審査、候補者資格の審査などの事務を行う。二、選挙人の登録。満一八歳以上の者が政治権利を持ち、意思表示でき、選挙権を行使する本村村民として有権者の資格を持つ。

選挙人の登録は選挙指導組で行われる。三、予備選挙の候補者名を提出する。定数五人以上は一人記載。実際、選挙に参加する村民は村全体の一〇%しか占めていないにもかかわらずこのような方法で出された候補者の数はかなり多いようである。例えば、一九九七年の選挙で廈門市禾山鎮五通村の村主任の予備候補者数は一二名のほり、高殿村では一名、江頭村では一〇名であった。この種の方法によつて村における有能な人物を選挙に推薦することが可能になる。四、予選。予選とはすなわち予備候補者から正式の候補者を選びだすことである。村民代表、村民組長、村党支部と村民委員会が参加する予選大会を開き、会で村主任の予備候補者が選挙演説を行い、続いて、村民代表から無記名投票で正式候補者を選出する。五、正式に投票選挙。

選挙の公正を確保するためである。一九九七年の選挙で福建省民政庁が統一規定をし、固定投票所を設置、移動投票箱をやめ、一人一票を実行して、代理投票を廃止、投票記入用のボックスを固定投票所に置いた。

経済が発達した廈門島内の農村にしても、経済が少々立ち遅れた寿寧県犀溪郷にしても、村民委員会の選挙はかなりの激戦だ。寿寧県南陽鎮党委員会書記は筆者との対談で、南陽村の選挙に参加する二人の候補者の間におきた激しい競争のいきさつを語ってくれた。

最も激しかったのは南陽村である。ケーブルテレビや有線ラジオまで用い、選挙は三回繰り返され、参加率は高く、投票率も高かった。二人の候補者にほとんど差がなく、一回目は一三票差、二回目は六〇票あまりの差であった。……一回目の選挙で決まらなかった原因は代理投票が行われたからである。代理投票をしていけないのではない。だが中には不正行為をはたらいて投票用紙を得るものもあるのだ。張三ではないが、張三と自称し、票を不正に受け取った。執行の最中にこの問題が発覚し、投票箱は封じ込められたまま開けられなかった。不正がおきてそれまで行われたことが何もかも否定された。一回目の選挙は選挙の手續きに從わなかったの認められなかった。本来、第二回の選挙を進めるべきだが、規定の五日間以内に選挙をし

なければならぬ。準備が十分に出来ていないし、双方とも競争が激しいものと見て、延期しようと言いだし、七、八日が過ぎてしまつて、規定の五日間の期限を過ぎて第二次の選挙もできなくなり、またゼロから始めることとなつた。政府の規定によれば、もしやり直すなら、選挙人の登録手続きからスタート、つまり、すべてはじめから執行しなければならぬ。第二の案はいままで正しく執行してきた分はそのままで、間違つたところからやり直すというものだった。結局われわれは第二の案を採用ことにした。元の第一号公告、選挙人登録に間違いはなかつたので、ミスのあつた場合に限り候補者段階から推薦することにした。第二回で候補者は四人推薦され、予選後、二人が残つた。第二回の正式選挙は投票率七〇%で、投票数も集中して、かなりの接戦でほぼ互角、一三票の差だけであつた。半数を超えなかつたため、二人とも当選に及ばなかつた。二回目の選挙は規定に基づき、五日間の期間内に改めて選挙をした結果、やはりこの二人となつた。二回目では投票率が三分の一を超えればよい。実は二回目の選挙への投票率は前回より更に高く、八〇%に達し、得票数も比較的集中していたが、最後になつて六〇票あまりの差がでて、もと村主任が当選した。選挙の過程はかなり激しかった。候補者が自分を宣伝し、

ケーブルテレビ、有線ラジオまで利用した。村民組長と代表が参加する予選大会で演説を行い、自分が当選したら、やりたいことはこれこれだという所信表明だが、その後、だんだん様子がおかしくなつてきて、互いに中傷ををはじめ、その結果双方とも壁新聞を貼るに至つた。主にこれまで生じた問題に対する釈明であつた。例えば、何か自分に対する問題が出されると、その釈明を壁新聞に書いて、自分で印刷し、町に貼つた。双方ともそうしたのである。対立する相手の中傷すると、相手もいわれた事柄のいきさつをはつきりさせるため、壁新聞を書いて町に貼りだした。

犀溪山後村では、村主任の候補者が、連夜人を百里離れた坑底郷に派遣し、自分を支持する選挙人を呼び戻し、投票してもらつた。

もちろん、地域によつて経済発展レベルは同じではないので、選挙の形も大分異なる。

〈福建省村民委員会選挙規則〉第十九条に「選挙に投票する際、選挙大会を開くべきである。選挙大会と投票所は選挙指導組が担当する。老・弱・病人・身体障害者と何らかの理由で選挙大会の会場、投票所に出られない選挙人には、三名以上の選挙管理事務員が移動投票箱を持ち運んで、在宅投票を受ける」と規定されている。福建省は山間地帯に位置する。一つの行政村は幾つかの自然形成的な村落から

なっている。福建省民政庁の統計によると、一九九四年に省全体で一万五〇七二の村民委員会が設置され、平均で各村民委員会の管轄範囲は一〇・六の村民組、五・五の自然村落、三七四戸、二六八八人となっている。ばらばらに散在している村落に千人あまりの選挙人を集め、選挙大会を開くのは実に困難なことである。従って、過去の経験では、一部の人口が集中する小さな村を除き、ほとんどのところでは選挙大会を実施しなかった。その代わりに選挙管理の事務員らが移動投票箱を持ち、在宅投票を受ける形を採った。

〈福建省選挙規則〉第二〇条に「選挙人は選挙期間中、不在の場合、村民委員会或いは選挙指導組の許可を得て、書式の形で他の選挙人に代理投票を頼むことができる。一人の選挙人が受ける代理投票数は三人分に制限する」と規定しているが、いままでの選挙では、大抵一世帯につき一人が家族の代表として投票するだけで、書式で代理投票の手続きもしないし、規定の三人分をオーバーした代理投票のケースも常に起こった。

移動投票箱と代理投票は実に多くの問題を抱えている。移動投票箱によって少数の事務員が私利を営み、不正な行為をする機会が与えられた。代理投票は選挙人の意思表示を少なからず阻み、候補者が強制的に投票をかき集めるのにも便利を提供した。村民委員会の選挙を少しずつ規範化するために福建省民政庁は一九九七年のはじめ、厦門後埔

村を手本にした経験をまとめた上で、一九九七年の任期満了選挙に新たな規定を作り出した。即ち、固定投票所の設置、移動投票箱の取り消し、代理投票の廃止と一人一票の実行、そして投票所に投票記入用のボックスを置くという要求であった。

にもかかわらず、省民政庁の定めた新たな規定を実施するにあたって、厦門と寿寧は大分異なっていた。厦門は厳格に省民政庁の新しい規定に基づいて、選挙を進めた。一九九七年厦門市湖里区禾山鎮の九つの村民委員会は、選挙中、固定投票所を設置した。投票所の設置は一般に村民組を単位にし、最も多い村では一八か所の投票所が設けられた(表2参照)。各投票所にはそれぞれ、受付、投票用紙記入所、投票所が置かれた。受付のところに担当の事務員が二人いて、本組の有権者名簿と投票用紙を用意しており、選挙人は選挙有資格証明書を見せて、投票用紙を受け取る。事務員は責任をもって

表2 厦門市禾山鎮における九七年村委員会選挙投票所の設置状況

行政村	高林	後坑	枋湖	高殿	五通	江頭	馬壠	鐘宅	蔡塘
投票所数	15	13	18	15	17	5	3	10	5

出所：1997年5月禾山調査による。

それらを照合し登録する。投票用紙記入所は二箇所に分けられ、一箇所には投票記入用のボックス、朱肉、印章、万年筆、インクが用意されている。もう一箇所は代筆所で、代書人一人が担当し、万年筆、インクがおいである。ボックスには選挙人が単独で入れるだけで、その他の者は立入り禁止となる。字が読めない者が他に選挙したい人がいれば代筆してもらうことができる。候補者の中から選定するのであれば、代書人に候補者名の位置を教えてもらってから、本人がボックスに入り、印を押す。

移動投票箱を取り消し、代理投票を止めれば、選挙人の投票率が低下する恐れがある。高い投票率を保つため、厦門市郊外の多くの村が投票に来る選挙人に手当を交付、投票するたびに一〇元が出されたという。厦門市湖里区は村民委員会の選挙で村民委员会主任、副主任と委員を選出するのに三日をかけた。主任候補者に落選した者は翌日に副主任の候補者として出馬、同じように、副主任の候補者に落選した者も村民委員候補者として選挙に出馬した。こうして、二二〇二名の選挙人を有する厦門湖里区禾山鎮の行政村において、一回の選挙で投票の手当だけに使われた資金は六万元あまりにのぼった。このようなことから、厦門湖里区の投票率は当然のことながら九五・二%の高さまで向上した。

もちろん、選挙人の全員が一回一〇元の手当を貰うために投票に行ったわけではない。厦門集美区灌口鎮頂許村は

経済は厦門島内ほど進んでいないが、選挙は寿寧地域より良い。彼らは固定の投票所を設置し、移動投票箱を取り消した時、投票に来る選挙人に手当を実施しなかった。この村の有権者数は一六一〇人、選挙に投票した選挙人数は一四五九人、投票率は九二・八%に達した。

しかし、寿寧県では経済が立ち遅れているため、村財政から投票に来る選挙人に対して手当が出ることはあり得ない。他方で村民委員会選挙の競争が厦門地域ほど激しくないため、村民の投票にも影響が出た。このような状況において、移動投票箱を取り消し、代理投票も廃止すれば、投票率が低下するに違いないので、大部分の場所では依然として投票箱移動と代理投票が実施されているのが実際であった。寿寧県犀溪郷の一二の行政村では選挙人数が少ない大王前、際坑、山後、李家山、外山村に固定投票所が設置され、他の七つの村は皆移動投票箱を利用した(表3参照)。一二の行政村で移動投票箱を利用して投票した人数は、六七九人、選挙人全体の七八%を占めている。代理投票はさらに普及している。

寿寧の大半の地域では代理投票を取り消していないが、競争の激しい村では政府の規定に基づき選挙の管理が厳格に行われている。南陽鎮のある書記長はこのように述べた。

選挙のプロセスを通じて、代理投票ができない点に多大の困難を感じた。いままではほとんど世帯主を代

表3 犀溪郷村委員会の選挙状況

行政村	有権者数	参加数	投票所 投票人数	移動投票箱 投票人数	参加率
犀溪	2,095	2,072	0	2,072	98%
西浦	1,271	1,137	0	1,137	89.50%
仙鋒	1,879	1,298	0	1,298	69%
甲坑	924	745	0	745	85%
渡家洋	382	368	0	368	96.30%
頼家洋	291	288	0	288	98.90%
大王前	674	516	311	205	76.60%
際坑	752	654	654	0	86.90%
武溪	742	686	0	686	92.40%
山後	406	396	396	0	96.80%
李家山	409	409	409	0	100%
外山	169	147	147	0	86.90%
合計	9,994	8,716	1,917	6,799	87.2%

出所：1997年5月犀溪調査による。

表とみなし、一人に三人分まで投票代理が認められたが、実際の過程では三人分に止まらないから、世帯主一人が決めることと同じであった。世帯主が在宅の場合、家族が五、六人いても、一家の代表として投票用紙記入を全部世帯主に任せた。一人が三人分まで代理できたが、実際は三人分に限らず、世帯主を中心にしていた。このようなやり方はこれまでではかなり合理的だったのだ、村民に受け入れられ、われわれが執行する時とはかどった。が、現在は変えられた。一人一票として、代理投票ができなくなった。こうして投票率が下がり、不在者投票が増えるという問題が生じた。第二に、村民に受け入れられ難く、「うちの一家には考えの差などなく、女房、せがれ、親父はみんな賛同しているに、なぜいちいち投票用紙に記入をしなければならぬのか。投票用紙に記入するため、全員が家でこの用紙を待つてあなた達が来るのを待つていては、仕事の妨げになる」と考える人が大勢いる。そこでわれわれは弁解し、宣伝もしたがやはり理解してもらえない。「夫婦で同じ寝床にいるのに女房から投票を任せられることがどうしていけないのか」という意見まであった。だから、われわれの仕事はかなり困難をきわめ、投票率が下落する一方であった。留守の者、山へ行く者があとを絶たない。……われわれが選挙を進め

たこれらの村には世帯を単位にして投票したケースはないのだろうか？ いやある。ただし、競争が激しくない場合に限る。ある村は比例選挙を行った。村主任候補者が一名だけの時、現職の村主任が威信高く、この人にまさる者がいないと皆に認められれば、投票においてわれわれは規制緩和を採り、村民からも「異議なし」との声が上っていた。最初にざつくばらんにこう言ったものだ。「皆さんの中にもし一人でも訴える者が出て、世帯で投票する形がひるがえされたら、全員ではじめからやり直すことになる。訴える者がいれば、選挙を繰り返す覚悟をわれわれは持っている」。皆に態度を表明させたところ「別に意見はない」という。このようにしてしまったのは規定に反するが、民意にあっているので、成功とは言えるのである。その他に幾つかの村では差額選挙を行い、競争が激しかったが、これにも成功した。方法は次の通りである。潭頭村では、二人の候補者の間で協議が成され、双方とも世帯主を代表にする代理投票に同意した。この村の家々は散在しており不在者も多いので、一家の成人した者で同じ釜の飯を食べる者なら代理投票を許可すべきである。双方の候補者はまず協定にサインし、万が一訴える者があれば、彼らが責任を持つ。やり直す必要があれば、彼らが自ら村民に呼びかけ再投票してもらい、鎮レベ

ルのリーダーのせいにしてはならない。こうして二人の候補者が出たが、選挙も世帯主を代表にし、代理投票の形で行った。民意に適合した方法だったので、告発は何一つ起こらなかった。だが候補者二人の間の競争が激しく、しかも解決が難航する場合、選挙の規定どおりにしなければならぬ。……一人の選挙人がこのプロセスを規定違反と言っただけで、やり直さざるをえない。われわれは山ほどの仕事を考慮して、とくに大きい村では複雑な事情を抱えているので、一人に一票と限定しなければならぬ。仕事量がいくら増え

てもそのようにする。

移動投票箱の形を採って投票するかどうかに関してこの書記長は次のように述べた。

われわれは基本的に移動投票箱を利用した。そうしないと投票率が更に低下する可能性があるし、大変困ったことだが投票所に来ようとしないうる者がいるからだ。移動投票箱も固定投票箱も経験したが、幾つかの村では固定投票箱に成功している。ある村で固定投票箱への投票率が九〇%を大きく上回った。いずれにしても指導組が自ら決めることである。家が集中する大きい村では固定投票箱のほうがよいと、われわれはあらかじめ彼らにアドバイスした。特に激しい競争が起きている場合は投票率が下がるはずはなく、双方が味方の

選挙人を呼び、票をかき集めると私は見ている。

(三) 村民組長と村民代表の選挙

村民委員会レベルの選挙で寿寧と廈門が同じぐらいの激戦だったと言うならば、村民組長と村民代表選挙の方法については寿寧と廈門では大分異なっていたとも言える。村民組は人民公社時代の生産隊に当たり、一つの行政村に十ぐらいの村民組が所属している。村民代表の数は村民委員会もしくは選挙指導組によって決められ、福建省村民委員会選挙規則第三十一条の「千戸以上の村で三五人、千戸以下の村で二五人より少なくてはいけない」という規定に基づき、村民組長と村民代表は村民組会議で選挙を通じて選出されるべきである。廈門地域では組長も一部の権力を握っていて、本組内の要件に決定権を持っている。例えば、土地収用後、その補償費を如何に使うか、本組の枠内に工場を建てる場合、誰に下請けをしてもらうのかなどである。各村民組の人数が少なく、お互いによく理解しあっているで、組長と村民代表の選挙も村民委員会の選挙に劣らぬ激しさであった。廈門後坑村のある幹部は、この村での村民組長を選挙する時の様子を語ってくれた。

問…村民組長の選挙の実態はどうなっていますか。

答…投票のかき集めは驚くほどひどいです。「わしに投票してくれば、当選後、君に土地をやるよ。家を建て

よう」「私に一票を投票してくれば百元をあげるよ」など何でもありで、頭が痛くなるほど大変でした。……問…村民代表は常に村民委員会に意見を伝えるのですか。答…主に組長に任せます。どちらかと言うと、村代表はあまり役割にたちません。

問…村民はどんなことに特に意見を持っていますか。

答…土地収用後、跡地で誰が工事をするのか、だれに下請けをしてもらうのかについての争いが激しい。村で道路を修築したり、水道パイプを据え付けるといふことに異論のあるはずはありませんが、水道を据え付け、道路を修築する工事は誰でも狙っています。今仕事がなく、暇な村民が余っています。前坑のような村では土地が大量に収用されたあとに工場をたてる計画があり、村民たちは工事の下請けを争って、やる気にあふれています。

問…これらの工事はどんな方法で下請けをするのですか。

村民委員会を決めるのですか、それとも各組長に決めてもらうのですか。

答…村民委員会の地区責任者と組長で会を開き、検討します。村民たちが下請けの申込みにきます。人が少なく、二、三人だけに下請けの希望があり、二、三の土地があいていたらびったりですが、人が多い場合、ならぬかの方法を考え、検討すべきです。例えば、入札

の方法を取り入れるとかなければなりません。

廈門地域の村民組長と村民代表の選挙は村民委員会の選挙が終わってからが普通である。村民組の人数が少なく、お互いに相手の事をよく把握しているので、選挙のプロセスも簡単になる。組長と代表の選挙に出馬しようとする村民は勝負を争うため早くから投票のかき集めに動きはじめているから、候補者名を提出して、投票用紙を選挙人に配り、選挙人たちに直接記入してもらう必要はない。

山間地帯に位置し、経済が立ち遅れた寿寧では、選挙の様子がだいぶ違う。村には村民組長と村民代表になりたい人がいないため、一人に一票ずつの選挙方法で村民組長と村民代表を選出するのは相当困難である。犀溪郷の党支部書記は村民組長と村民代表についてこのように話してくれた。

問…犀溪郷組長を争う競争はどうですか。

答…組長の職務につきたい人が極めて少なく、代表も同様です。今の人は組長や代表という職は自分に回ってこないと有り難い、厄介なことに遭わなくて済むと思っている。各自が飯を食うぐらいはなんとか維持できますから。

寿寧南陽鎮の実態も類似している。南陽鎮の党支部書記はこのように語っている。

問…あなたたちの組長選挙はどうですか。

答…激しくない。いままで競争などはなかった。元の生

産隊長が健在であれば基本的に組長の職務を続けるので、ほかにもう組長を選ぶ必要がない。元の生産隊長がいなくても、自然にボスができるものだ。会議の知らせを伝えてそのボスが会議に来れば、それでボスと認められ、反対する人もいない。それでわれわれのところでは、村民組長の選挙は行わなかった。

村民組は見かけだおしで、村民組長と村民代表の職務は、村民にとって何の魅力もないので、選挙の形でなかなか選出にくいのである。これらの地域でのやり方は村選挙指導組によって村民組長と村民代表が決められ、任命された人のなかに元の生産隊長もいれば本組で高い威信を持つ村民もいる。しかし、選挙指導組が任命するので、個人の感情的な好みも避けがたい。一九九七年の村民委員会の選挙で予備候補者から正式候補者までの選定過程は予選大会を通して決定されたのである。予選大会に参加する村民代表と組長は、予備候補者に投票、採決を行い、票数によって正式候補者を決める。寿寧の村民組長と村民代表の誕生は選挙を通したのではないため、彼らの選挙投票による予選の公平性も大きく問われることになった。

経済発展レベルが廈門湖里区禾山鎮と寿寧県の間にある集美区灌口鎮頂許村では組長と村代表の選挙方法が前記の二箇所とやや違いがある。ここでは、村民組長も本組の村民から投票され、選出されるのである。表4を見ればわ

表4 厦門集美区灌口鎮頂許村村民組長選挙の立候補率

組別	大東山	頂許	洋宅	上安	石星	湖里	山埔	下許	張庄	合計
有権者数	243	237	161	123	79	96	198	271	202	1610
参加数	210	214	161	115	65	85	187	202	168	1407
参加率	86%	90%	100%	93%	82%	89%	94%	75%	83%	87%

出所：1997年3月23日頂許調査による。

かるように、村民組長選挙の立候補率はわり高いもので、村の総立候補率は九一%である。

頂許村の九つの村民組の中で山埔、下許、張庄の三組は第一回の投票で候補者の得票が過半数を超えなかったもので、第二回の投票をした。頂許村村民組長が激しく争われる原因は、地元の経済が厦門島内の農村ほど発達していないにもかかわらず、一部の土地が国に収用され、村民組に対して土地収用後の補償費を割り当てることのできるからである。更に村民委員会の規定に基づく、一旦土地が収用されると、跡地の建築現場の所属する組が下請け業者になる。一体誰に下請けを任せるかという決定は組長の権限である。

しかし、厦門島内と相違するのは、頂許村の村民代表が村民の選挙で選出されたのではな

く、村民委員会の任期満了選挙の直前に村の選挙指導組によって指定されることである。

議論と結論

以上われわれは、福建省の経済発展レベルの異なる三つの地域にある村民委員会の選挙プロセスを考察した。ジン・オイとスコット・ロゼルが全国範囲における八つの省から二百の村を対象にサンプリング、調査した方法と異なり、われわれはただ福建省内に限って経済発展レベルに格差のある三種類の村を対象に研究を行った。周知のとおり、各省は村民委員会組織法を実施する過程での方法がさまざまであり、具体的な規定も一致していないため、進展の仕方が不均衡となっている（王振耀・湯晋蘇等一九九四）。事実、省と省の選挙実態を比較するのは不可能で、特に経済発展の状況が村民委員会の民主的選挙に与える影響を比較することは難しい。ただし、同じ省の範囲内で、村民委員会組織法を貫徹する関連規定の面は大体統一されている。われわれが同じ省の範囲内で、経済レベルの異なった村の選挙を比較するのなら、それは可能だと思われる。無論、各地に大きな差異が存在しているので、もっと広い範囲での推論をひかえ、一つの省内の異なった経済類型の村民委員会選挙について幾つかの分析を試みた。

上述したように三種類の村は経済発展レベルがそれぞれであるが、村民委員会の選挙はいずれもかなり激しく、村民の参加程度も割に高いほうである。これには二つの原因がある。

まず、村民の立場から見ると、村民委員会は村民の利益に深く係わっている。生産責任制を実施して以来、農家が一世帯を生産単位とする自営業に変えられたので、村民委員会は昔の生産大隊のように農民生活をそのすみずみまで規制しなくなった。しかし、一方では農村末端にある民衆の組織として、村民委員会はまだ農村の社区（コミュニティ）に相当な資源を握っている。事実上、村民委員会の村に対する影響力は、多かれ少なかれ村民委員会が持っている公共財産の多少によるものである。上に述べたように経済が立ち遅れた寿寧県犀溪郷では、村の年公共収入はわずか数万円で、一方経済が発達した厦門島内の農村では公共収入は年に百万元に上った。最も重要なのは、村民委員会が握っている権力がかなり大きいことである。村民委員会の主要な事務は公益事業であれ民事紛糾の調停であれ、村民の利益に密接な係わりがある。例えば農民が家を建てるのに使用する土地に対する審査と許可は最大の関心事である。村民委員会が村民の利益と密接に係わっているからこそ、村民たちの選挙への参加、情熱はかなり高いのだ。福建省民政庁の統計によると一九九七年に全省の村民委員

会任期満了選挙に参加する選挙人の投票率は九〇・一％となつて^⑨いる。

次に選挙立候補者の立場から見れば、村民委員会の選挙が激しくなるもう一つの原因は、村民委員会の職を狙って参加する村民が少なくないからだ。村民委員会幹部の選挙に立候補しようとする村民は、事前に村幹部になった時の損得を考慮しておくに違いない。今の状況で、村幹部になるメリットは経済利益にある。前に述べたように、経済が発達した厦門島内の農村では、村幹部には月に千元の給料が出るが、経済が立ち遅れた寿寧では、郷政府から村の主要幹部に小額の手当しか出ない。経済が発達した地域では、村幹部は給料以外の収入も沢山もらえる。現在村レベルの財政管理がまだ完全に軌道にのっていないため村民委員会は毎年百万円近くの収入を配分する権利を握っており、多くの便宜を図ることができる。経済が立ち遅れた寿寧では、村民委員会幹部になるだけでは経済利益が得られないので、彼らはいつか幹部募集のルートを通じて国家公務員になることを希望している。国は毎年村レベルの幹部から一部の人を国家公務員に募集する方針であるが、その人数は多くはなく毎年、一郷から一名、二名に限られている。公務員募集は厦門の村幹部にとって何の魅力もないが、寿寧の村幹部にとっては夢にまで見るものである。

しかしながら、経済発展レベルの格差があるため、三つ

の地域が、省民政庁の一九九七年に定めた新たな選挙規定を貫徹させたり、村民組長、村民代表を選出する方法において大きな差異があることをわれわれは見た。

福建省民政庁の新たな選挙規定を貫徹、実施する点では、経済がわりに発達した地域の選挙の方が明らかに進んでいる。いまだ数回の任期満了選挙の経験を統括した上で、福建省民政庁は一九九七年の選挙で幾つかの新しい規定を作りだした。例えば、移動投票箱を取り消し固定投票所を設置したこと、個人のプライバシーを守るための秘密投票を実施したこと、一人一票を実施し、代理投票を厳しく制限したことなどである。上述したように、廈門島内の経済が発達した農村はこの点に成功した。各村民組に投票所を置いたばかりでなく、省の規定に基づいて選挙を行い、一人一票とし、代理投票を中止した。廈門島内の行政村が省の規定をよりよく貫徹した原因はいくつもあるが、中でも絶対否定できないのは経済要素が極めて重要な役割を果たしたことである。投票に参加する選挙人に一〇元の手当を支出するやり方は九五・二%まで達した投票率が水増しされていることを勘案しても、投票率を上昇させるには役立った。にもかかわらず、発達した経済は村民委員会の選挙競争をさらに一層激しくさせたようで、これこそが選挙指導組と関係部門が省の新たな規定を、安心して厳しく執行できた最も主要な原因であるに違いない。われわれがまた目にしたのは、経

済発展レベルが立ち遅れた寿寧と発達した廈門特区の中間にある廈門集美頂許村でもまた、省の新しい規定に従って選挙が行われたことである。寿寧では、経済が発達していないので、村民委員会は投票に来る選挙人に手当を支出する余裕もない。更に競争の激しさも廈門には及ばないため、新しい規定に基づいた選挙などあり得ず、ほとんどのところでは、まだ移動投票箱を用いて、在宅投票を受けているし、代理投票も依然として一般的となっている。過去の方法で投票しても、寿寧県犀溪郷の投票率は八七・二%までしか上昇せず、廈門地域の投票率に比べ、やはり差異がある。寿寧では、候補者の競争が激しい村に限って固定投票所で一人に一票の方法を用いて選挙投票する。双方の競争が激しい原因は多様であるにもかかわらず、村の公共収入が多く、経済的実力をつけたのが中でも重要な原因である。

村民組長と村民代表の選出方法に関して言えば、経済の発達した廈門島内では厳格な手続きに基づき、選挙を通して選ばれる。現在いくつかの研究はポイントを村民委員会の選挙におき、村民組長と村民代表の選出方法についてはあまり論じていないが、村民組長と村民代表の選挙も村民委員会選挙のなかでの重要な一部となっているのは事実だ。福建省では一九九七年の村民委員会任期満了選挙で、予備候補者から正式候補者までの選抜システムが過去の「下相談、討議」から村民代表大会を通じた予選に変わったあと、

村民代表の役割が一層重要になってきた。「下相談、討議」が郷鎮リーダーと選挙指導組について自分の意思どおり、小範囲内で候補者を決めるのを可能にするというならば、選挙指導組に指名された村民代表と組長が参加する予選大会は問題を抜本的には解決していない。村民が投票した選挙で当選した村民代表と、組長の参加する予選大会で投票を通じて選ばれた正式候補者であってはじめて、選挙人の意思を反映できる。厦門島内の農村では経済が発達しているので、村民組長が相当の資源を掌握し、一定の権力を有することで、競争も極めて激しくなり、本組村民の投票によつてはじめて当選できる。ここでの村民代表は組長ほど権力を握っていないが、本組内の重大な事務に参加、発言することができるので、選挙を通さなくては当選できない。寿寧県犀溪郷では経済が立ち遅れたため、村民組は見かけだおしで、村組長と村民代表の職務は縁の下の方力持ちと見られ、彼らは選挙を通じてではなく、選挙指導組によつて指名されていた。経済発展が中レベルにある厦門市集美区灌口鎮頂許村に対して、村民組長はある程度の権力を握っているので選挙の方法で当選したようだが、村民代表のほうも選挙指導組によつて指名されたのである。

従つて、ジョン・オイ等の結論と違つて、上述した事例の分析の上にわれわれが得た結論とは、経済発展は村民委員会の競争民主選挙を促進することができ、あるレベルに

達した経済発展は村民委員会の民主選挙を成功させる前提となるというものだ。オイとロゼルの観点では、収入の増大と村民委員会の競争選挙の間に対応する関係が存在しない。そればかりか収入の増大につれ、競争選挙はかえつて弱まる一方である。にもかかわらず彼らも認めているのは、村民の参加、村民委員会、村民利益の三者の相互には大きな関係があることだ。「農民が村民委员会主任、村民委員会が握っている資源を頼れば頼るほど、競争選挙がおきるし、村民代表会議により多く参加するに違いない」(O'and Roelle, 1997)。どんな状況であれば、村民は一層村民委員会に頼るのであるうか。オイ等の分析に説得力がないのは明らかである。経済の発展はしばしば村民と村民委員会の間のコミュニケーションを強化するのであつて、逆ではない。われわれの研究が明らかにしたのは、経済が立ち遅れた地域においては村民の収入がたいへん低く、公共収入も少ないので、村民委員会選挙の競争程度がやや落ち、村民組もただの見かけだおしになり、選挙で組長と村民代表を選出できなくなる一方で、経済が発達している地域で村民の収入が高いと同時に村の公共収入も少なくない場合、村民委員会選挙の競争が激しくなり、村民組は一定の実権を握っていることから組長の選定も選挙によることが可能となることだ。オイが述べた現象はありうるのだろうか。即ち、個人が高収入で、個人企業も軌道にのつていて、逆に

郷鎮企業の収入が低下するような状況が一部の村には存在するのかもしれない。だがわれわれの調査のどこにもそのような状況はなかった。より普遍的な事例は、個人収入の高低と公共収入の多少が正比例する関係であった。経済が発達するにつれ、その地域の公共収入が上回り、個人の収入も増えるはずであり、逆に、経済が発達しないと、個人の収入は低いままだし、公共収入の向上もあり得ない。各省の実態が異なっていて、村民委員会選挙に関する規定も揃っていないため、われわれは他の省の選挙情況に対して結論を出すことはできないため、他の省の実態についてはもっと深く研究を進め、実証する必要がある。

注

- 〈1〉 一九九七年五月禾山調査。
- 〈2〉 一九九七年二月後埔調査。
- 〈3〉 一九九七年三月頂許調査。
- 〈4〉 一九九七年五月犀溪調査。
- 〈5〉 一九九七年四月禾山調査。
- 〈6〉 一九九四年の選挙時に「下相談、討議」の方法を採用して正式候補者を決めた、つまり選挙民の意見を聞いた上で選挙指導小組とその討論によって決定したのである。これによって郷鎮は自己の意見に基づいて候補者を絞りこむことができるようになった。一九九七年のやり方はより選

- 挙民の願望を反映できている。
- 〈7〉 一九九七年五月一日南陽調査。
- 〈8〉 一九九七年五月一日山後調査。
- 〈9〉 福建省民政庁基層政權建設所「福建省村委会一九九四年改選選挙基本情况」一九九四年。
- 〈10〉 一九九四年一〇月三十一日、安徽省当涂県丹陽鎮河東村の選挙で、移動投票箱を持った工作員が一戸ごとに無記名投票をせずに、誘導と指図のもとに大量の記名を行っていたことについては、吳黎明（一九九六）参照。
- 〈11〉 福建省のその他の地区においてはただ一回のみ投票が行われた。
- 〈12〉 一九九七年五月湖里調査。
- 〈13〉 一九九七年三月頂許調査。
- 〈14〉 一九九七年五月一日南陽調査。
- 〈15〉 一九九七年五月一日南陽調査。
- 〈16〉 一九九七年四月後坑調査。
- 〈17〉 一九九七年五月五日犀溪調査。
- 〈18〉 一九九七年五月一日南陽調査。
- 〈19〉 福建省民政庁基層政權建設所「一九九七年度全村委会换届選挙情况匯總」一九九八年。

参考文献

- Dearlove, John 1995 "Village Politics," in Robert Benewick and Paul Wingrove (eds.), *China in the 1990s*, Vancouver: UBC Press.
- Hu, Rong 1998 "Village Committees in Rural China: Dependent

of Independent Organizations," Albany: Annual Conference of

New York Political Science Association, May 8-9, 1998.

Kellher, Daniel 1997 "The Chinese Debate over Village Self-government," *The China Journal*, No. 37, January.

Lawrence, Susan V. 1994 "Democracy, Chinese Style," *The Australian Journal of Chinese Affairs*, No. 32, July.

Longdagan, John B. and Poole, Keith T. 1996 "Does High Income Promote Democracy?" *World Politics*, Vol. 49, No. 1 (October 1996), pp. 1-30.

Manion, Melanie 1996 "The Electoral Connection in the Chinese Countryside," *American Political Science Review*, Vol. 90, No. 4, December.

O'Brien, Kevin J. 1994 "Implementing Political Reform in China's Villages," *The Australian Journal of Chinese Affairs*, No. 32, July.

Oi, Jean C. 1996 "Economic Development, Stability and Democratic Village Self-governance," in Maurice Brousseau, Suzanne Pepper and Tsang Shu-ki (eds.), *China Review 1996*, Hong Kong: The Chinese University Press.

Oi, Jean and Rozelle, Scott 1997 "Democracy and Markets: The Link between Participatory Decision-Making and Development in China's Economy," Presented at the International Symposium on State and Society in China, University of Shizuoka, Japan, November 23-24, 1997.

Oi, Jean C. 1975 *State and Peasant in Contemporary China: The Economy of Villages Government*. Berkeley: University of

California Press.

Oi, Jean C. 1975 "Economic Development, Stability and Democratic Village Self-governance," in Maurice Brousseau, Suzanne Pepper and Tsang Shu-ki (eds.), *China Review 1996*, Hong Kong: The Chinese University Press.

Przeworski, Adam and Limongi, Fernando 1997 "Modernization: Theories and Facts," *World Politics*, Vol. 49, No. 2 (January 1997), pp. 155-183.

王振耀·湯晉蘇等 一九九四『中國農村村民委員會換屆選舉制度』北京：中國社會出版社。

王振耀·湯晉蘇等 一九九五『中國農村村民代表會議制度』北京：中國社會出版社。

王振耀·湯晉蘇等 一九九六『中國農村村民委員會法律制度』北京：中國社會出版社。

包心鑾·王振海 一九九一『鄉村民主』北京：中國廣播電視出版社。

Lipset, Martin Seymour 1997 張紹宗譯 一九九七『政治人——政治的社會基礎』上海：上海人民出版社。

吳黎明 一九九六「一九七六選民討回選舉權」『鄉鎮論壇』一九九六年第一期。

鄭永年 一九九六「鄉村民主和中國政治選程」『二十一世紀』香港中文大學中國文化研究所，第三五期。

徐勇 一九九七「村幹部的多重角色——代理人與當家人」『二十一世紀』香港中文大學中國文化研究所，第四二期。

(邦詠 宋娟娟)